

伸びる邪教の魔手!

「娘が一年も行方不明」

犠牲者、置賜地方で十数人?

いま、第三次宗教ブームといわれ、世間にはいろいろな新興宗教があふれて、ファッションのように若い世代の心をとらえている。それはそれで一つの社会風情なのだろうが、しかし、なかには明白に「邪教」と判断される新興宗教があつて、入信した若い魂を奪わせ、その人生を大きく狂わせているばかりでなく、息子をそして娘をいづくしめ育ててきた親たちを「悪魔」呼ばわりさせ、やがて家出、集団生活、そして行方不明と、家庭崩壊へ追い込む「厄神」ともいうべき反社会的宗教もあつて、マスコミに取り上げられるなど、ようやく社会問題化してきた。そしてこの「邪教」置賜地方にも、深く静かに潜航している。くれぐれも用心。

「日韓海底トンネルを」

途方もない話で寄付強要

さきごろ夜九時近く、本紙に電話があつた。電話の主は南陽市赤湯の会社員Mさん。ブライベートなこと、折り入って相談したいという。どういふことか聞いてみると「娘が新興宗教に強引に誘われて入信、やがて集団生活をするといっ

るといつて、娘の反対を押し切つて家出、そのまゝ音信が途絶え、行方不明となつてしまつた。

その後、カ月はと前J子さんから電話で連絡があつたが、「だれでいる」というだけで、場所を隠して請らず、Mさん夫妻の「帰つてきて」という必死の懇請も、結局は遠方だった。Mさん夫婦はこの一年、娘の安否を憂い、夜もろくろく眠れぬ日を過ごしてきたとい

うが、しかし警察に相談しても「成人しているし、信教の自由には立ち入れぬ」といふことで、警察も打つ手がないという。

ところでこういうケースはJ子さんだけでない。米沢市の会社員Aさんの場合は、数年前大学を優秀な成績で卒業した息子のBさんが、やはりこの宗教の魔手にかかつた。Bさんの場合はもつとも、行方不明といふのではなく店所は北海道とはつきりしているが、家族がどんなに説得しても帰る意志はなく、逆に「教祖が日韓海底トンネルという国際的大事業のプランをもっている。この事業資金を寄付しなければならぬ」と、父のAさんに巨額の金を要求、断つたところ「親父は悪魔だ」と「悪魔呼ばわり」されたという。

かつてマスコミに報道されたところによると、この教祖は自らをキリストの生れ代りと称して、信者には教祖への絶対的服従を要求、日常生活では物品販売と街頭での信者獲得を強制、すべての利益が教祖一人に集中するように仕組んで、その資産はいまでは世界有数といわれるほどだ。教祖が韓国人のため、もともと本部は韓国にあり、一説によるとそのほう大な資金で文鮮明教祖は一時韓国政界の黒幕となつたが、朴大統領と反目、本部をアメリカに移したとされている。

しかし信者数が圧倒的に多いのは日本だといわれ、文鮮明にとつて日本人は文字通りのカモ。たんに信を承諾すると、短時間の間に徹底的に洗脳し、世間はもろろん、親兄弟、家庭をどすべとはとるにたぬむので、真いのただひとり文鮮明教祖だけと固く思い込ませてしまふ。もともと

暗示に弱い日本人、こうなつてしまふとどんなに理路整然とした説得も耳には入らず、批判するものはすべて「悪魔」と断るものだから狂信状態に陥るのだ。

こうしてJ子さんやBさんのように、徹底的な洗脳を施され、それまでに受けた教育や家族との情愛、さらには人間としての価値観まで破壊されて、明らかにな「狂信者」となり、家族を悲しませている若者は、事情通によると、この置賜地方だけで十数人はいるといふ。だがこの「邪教」の魔手から自分を守るには、当人の健全な判断と覚悟が必要だ。